

WEB 版

道徳だより

こころのたね

令和7年2月12日
大田区立馬込小学校
校長 山本 秀一
道徳部
令和6年度 第8号

日本の挨拶・世界の挨拶

挨拶はなんのためにするのでしょうか。こどもたちに聞いてみると、「お互いが気持ちよく過ごすため」といった模範的な答えが返ってきそうです。挨拶は、相手とのコミュニケーションのきっかけや人間関係を円滑にするためにするものです。本校の馬込生活スタンダードにも、「あいさつをする」という文言が入っており、学校を挙げて挨拶の励行に努めています。

今回は日本と世界の挨拶の違いについて考えてみたいと思います。言葉の違いはあれ、一般的には出会いと別れの場面で挨拶が交わされるのは共通しています。ただ、日本では、「お辞儀」なのに対し、欧米では「握手」や「ハグ」が一般的です。歴史的な起源については諸説ありますが、握手は手に武器を持っていないことを示すためであり、お辞儀は体の中で最も重要な部位である頭を下げることで、相手に敵意がないことを示すことのようにです。

また、お辞儀の角度が誠意の度合いを示しますが、では握手は何で誠意が分かるのでしょうか。実は握手の強さらしいです。私も挨拶の際、何度か欧米人と握手をしていますが、必ずと言っていいほど強く握られました。強く握るほど自分の方が立場が上だということを暗に相手に伝えていることもあるようです。

道徳的には「礼儀」という内容項目に挨拶は含まれます。今後も気持ちのよい挨拶、自分からする挨拶に重点をおいて指導をしていきます。
(文責:道徳教育推進教師 久慈 利幸)

3年生の道徳科の時間

この日の授業では、日本のお米が外国から伝わったことを知ることで、世界のお米料理に興味をもつきっかけになった話を通して、他国の文化や伝統に興味をもち、親しもうとする意欲を育てる実践をしました。

主題名: せかいのことを知ろう 教材名: 「日本のお米、世界のお米」

内容項目: 「国際理解、国際親善」

あらすじ: おにぎりを食べた「わたし」は、母から、お米が大昔に他の国から伝わってきたものであることを聞きます。父からは、お米がいろいろな国で食べられていることを聞き、「わたし」は他の国のお米の食べ方を調べてみることにしました。そして、お米の食べ方はいろいろあることを知り、その料理を食べたいと思いました。

教師の問い

P136～137のお米を使った料理を見て、あなたはどんなことを思いましたか。

こどもたちの考え

- ・日本以外にもお米の料理があるなんて、初めて知った。
- ・どのような味がするのか、食べてみたい。
- ・お米から麺ができていることを初めて知った。

授業の後半では、他の国のことで知っていることについて、こどもたちに聞いてみました。

教師の問い

他の国のことで、どんなことを知っていますか。

こどもたちの考え

- ・日本は車は左側通行だけど、外国は右側通行が多い。
- ・日本は日本語を話すけど、外国は日本語以外の言葉を話す。
- ・イギリスの正式名称は、とても長い。

板書・授業の様子です。



編集後記

「道徳だより」も発刊から丸3年を迎えようとしています。本校の各学年の道徳の授業風景や、こどもたちの発言を保護者、地域の方々にもお知らせするのが目的でした。

こんな道徳だよりを読んでみたい、また、こんな内容だと面白いというご意見がございましたら、ご遠慮なくコメントをいただきたいと思います。右のQRコードよりご意見をお待ちしております。

